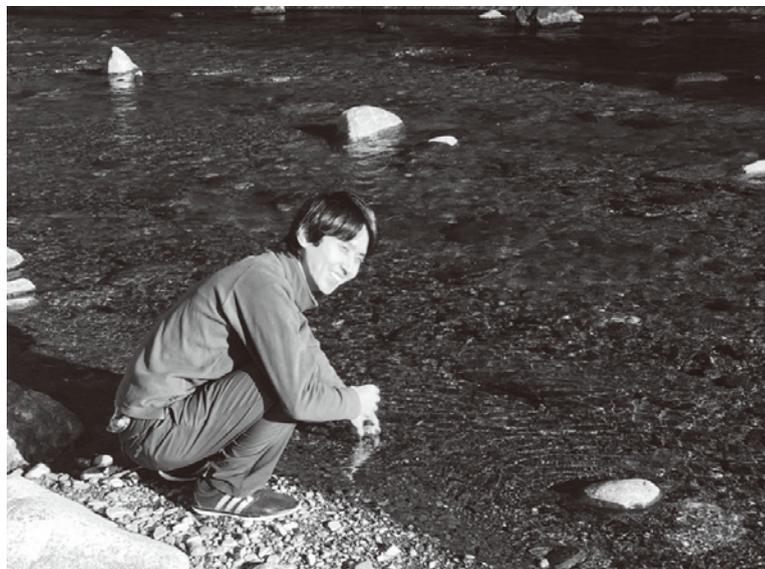


ミュージアム研究員紹介

日下宗一郎主任研究員

日下宗一郎



キャラバン搬入の合間に水試料採取（水窪川）

ふじのくに地球環境史ミュージアムの日下宗一郎と申します。平成27年4月に着任してから、早くも1年が経とうとしています。これまで開館に向けて常設展示の制作に勤しんでまいりました。3月の開館を前に自己紹介をさせていただきたいと思います。

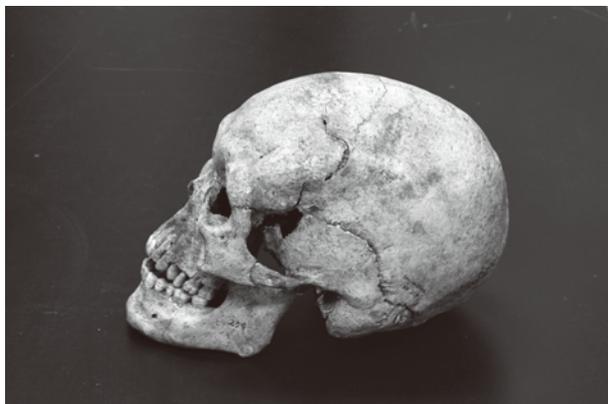
私は古人骨を研究の対象とする自然人類学を専門としています。自然人類学は、人類の進化、人間性の由来、日本人の起源などを追求するとても面白い学問分野です。古人類化石や日本の古人骨の研究は、未開拓の部分が多く、現在も新しい発見が続ぎ、人類史はつぎつぎと書き換えられています。

私はドーキンスの「利己的な遺伝子」を読んだことがきっかけとなって、生物学に進みました。大学では、霊長類学に進むか迷いましたが、片山一道先生との出会いをきっかけとして、自然人類学研究室の門をくぐりました。ニホンザルの個体追跡などを行う霊長類学よりも、古人骨に真摯に向き合う骨学の研究のほうが、私の性に合っていたようです。ヒトは骨になった後、話をすることができません。このヒトに如何にしてその一生を語らせるか、それが研究の醍醐味です。

私が研究対象としたのは、縄文時代の古人

骨です。彼らの生活を生き生きと蘇らせること、それによって私たちヒトの由来と人間性の起源に迫りたいと考えました。安定同位体分析という骨から食べた物を復元する手法を用いました。その結果、縄文人の食性を明らかにし、生前に健全な歯を抜く抜歯という文化的な風習と食性との間に関係があったことを明らかにしました。歯の抜き方によって、海産物を摂取する割合が異なっていました。このことは、縄文時代の生活や抜歯風習の意義について再考を迫る結果となりました。

研究では資料を丁寧に観察して、きちんと調査していくことがとても大切です。人間とは何か。この単純かつ難解な疑問に対して、研究を続けていく中で答えを導きたいと思っています。静岡は本州唯一の旧石器時代人骨の産出地です。ミュージアムでは、静岡の人類史の研究を端緒として、人類の進化、人間性の起源に迫る研究を行っていきたいと考えています。この活動とその普及は、一人で行えるものではありません。ミュージアムにて皆様と一緒にさまざまな活動を行っていきたいと思います。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。



蜷塚貝塚（浜松市）より出土した人骨